

発達から探る脳の構成原理と動作原理

講演者：多賀巖太郎(東大教育)

オーガナイザー：栗川知己（東大総合文化）

多賀先生は脳のマクロな機能の理解するために、認知発達分野からのアプローチをされている方で、今回はメインシンポジウムで個体レベルの講演を担当して頂きます。

乳児の認知機能がどのように発達していくかを調べることで、認知機能を理解しようとする分野が認知発達です。この分野では発達の生得的（遺伝子からの情報）側面と後天的（環境からの情報）側面の関係に関し多くの議論がなされてきました。多賀先生はこの関係と皮質下の領域と大脳新皮質が結合する過程と関連に興味を持っておられ、特にU字型発達と呼ばれる現象に着目されています。（U字型発達という現象は乳児の発達過程でみられる現象で発達の初期でできていたものが発達中期では一度成績が落ち、さらに発達が進むと元に戻るという現象のことです。）

認知科学系の分野は参加者の方のあまりなじみのない分野かもしれませんが、個体のレベルから脳を理解しようと思う時には有用なアプローチですのでこの機会に是非話を聞いておくといいのではないかと思います。